

通し番号	4868
------	------

分類番号	29-24-15-01
------	-------------

三浦半島地域におけるズッキーニ栽培はトンネル早どり作型が適します

[要約] 三浦半島地域におけるズッキーニ栽培は、2月から3月播種のトンネル被覆栽培により7月まで収穫でき、可販果率や収量性の高い品種を選ぶことで安定した可販果収量を得ることができる。

神奈川県農業技術センター・三浦半島地区事務所

連絡先 046-888-3385

[背景・ねらい]

三浦半島地域では市況低迷や高齢化などによりメロンやスイカ等の夏作の作付けが減少しており、緑肥や代替作物の導入を検討している。そこで、今後の需要増が期待され、比較的短期間に収穫できる軽量なズッキーニについて、現地導入を図るための作型や栽培方法、優良品種などを明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 2～3月に播種し、育苗して、定植後にトンネル被覆栽培を行うことで強風による葉柄の折れや降雨後の植物体の腐敗などの発生が少なくなり、可販果収量が多い。また、5月以降の播種では腐敗や病害虫の発生が増加することから高温期の栽培は困難である（図1）。
- 2 品種・系統により収量性が大きく異なる。可販果率や収量性の高い品種として、緑皮品種は‘グリーンボート2号’、‘モスグリーン’、黄皮品種は‘ゴールドトスカ’、‘イエローボート’が有望である（図2）。
- 3 2～3月播種のトンネル被覆栽培にかかる資材費や販売額試算を平均可販果本数2,000本、単価65円と仮定して計算したところ、1a当たりの農業所得は71,000～107,000円となる（表1）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 トンネル被覆は栽培期間を通して行い、換気は適宜行う。
- 2 着果に植物ホルモンを使う場合は、トマトーン50倍で処理する。植物ホルモン処理は不受精に起因する曲がりや変形、腐敗等の規格外果の発生を軽減できる。
- 3 栽培にかかる資材費や販売額試算では、光熱費、農機具減価償却費、出荷手数料は考慮していない。

[具体的データ]

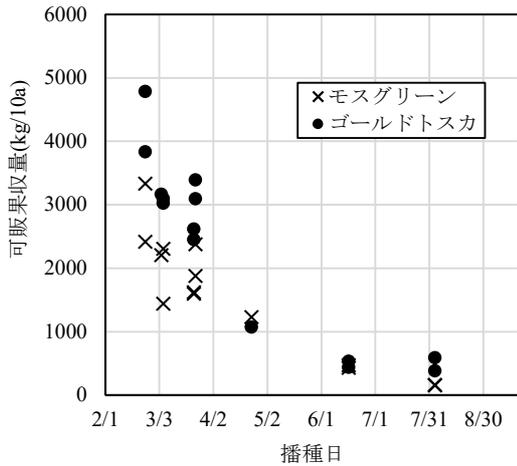


図1 播種時期の違いによる可販果収量^z

^z: 平成26～29年度のトンネル栽培による結果、畝幅180cmまたは240cm、株間70cm、ベット幅1.4mでシルバーマルチ被覆、トンネルは幅270cm、厚さ0.075mmの農ビを使用、可販果収量は両品種とも試験年度の果重×果数×(栽植本数:59.5本/a)×可販果率から算出

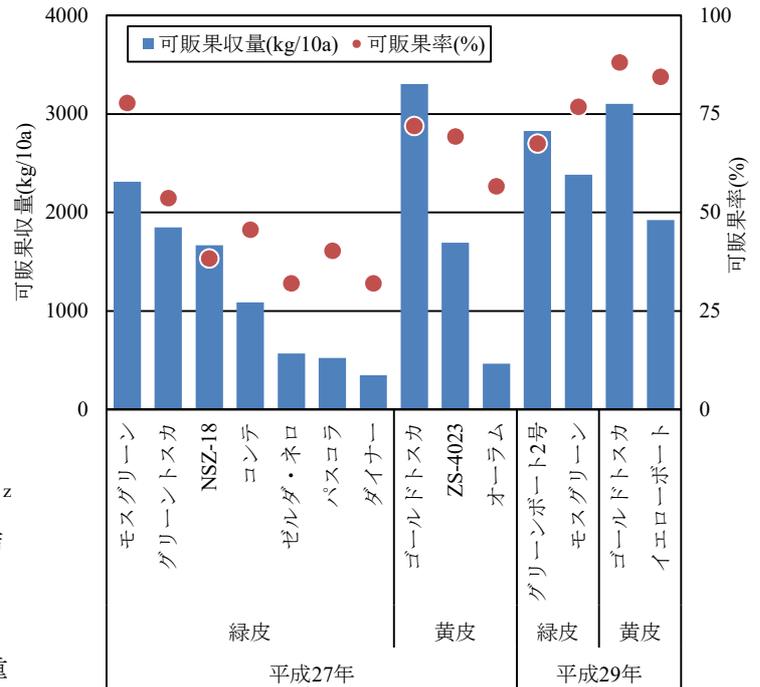


図2 各品種・系統の可販果収量及び可販果率^z

^z: 作型は3月播種、平成27年度は3/5播種、3/23定植、収穫期間5/6～6/18、平成29年度は3/23播種、4/13定植、収穫期間5/4～7/24、植物ホルモン処理有り、可販果収量は各品種・系統とも試験年度の果重×果数×(栽植本数:59.5本/a)×可販果率から算出、可販果率は曲がりや腐敗、収穫遅れ(400g以上)等を除いた可販果の重量割合

表1 2～3月播種作型の栽培にかかる1a当たりの資材費と販売額試算^z

		1年目	2年目以降 ^y	備考
粗収入(円)		130,000	130,000	平均可販果本数2,000本、単価65円/本 ^x
物財費(円)		合計	合計	
	種苗費	2,000	2,000	ズッキーニ種子
	資材費	48,000	12,000	農ビ・トンネル、マルチ、トンネル支柱
	肥料費	2,000	2,000	堆肥、化成肥料
	農薬費	2,000	2,000	殺虫剤、殺菌剤
出荷経費(円)		5,000	5,000	出荷袋
農業所得(円)		71,000	107,000	

^z: 光熱費、農機具減価償却費、出荷手数料は考慮していない。

^y: 2年目以降はトンネル支柱の資材費が不要。

^x: 単価は東京都中央卸売市場大田市場における平成27～29年度の4月～7月の単価の平均値と有望品種の平均果重から算出した。

[資料名] 平成25～29年度試験研究成績書(三浦)

[研究課題名] ズッキーニの多様な作型開発

[研究期間] 平成25～29年度

[研究者担当名] 太田和宏、高田敦之